



Doctor's Introduction

耳原総合病院医師紹介

循環器内科 西田 拓司

にしだ たくじ



循環器
内科

はじめまして。この4月から本格的な循環器研修を始めた5年目医師の西田拓司と申します。耳原総合病院で医師としてスタートして早いもので、もう5年が経ちます。循環器を中心として診療はしていますが、「患者様が困っていることであれば何であっても科の枠組みを超えて一緒に悩み、それを手助けするお手伝いをしたい。」とずっとそう思ってきました。ですので循環器科のことになるとわざわざどんな些細なことでも気軽に相談していただければうれしく思います。

私が携わっている<循環器>この分野には「狭心症・心筋梗塞」「心不全」「不整脈」「高血圧」などの疾患が含まれています。そして実際循環器診療をするようになり強く思うことは、これらの病気が生活習慣の乱れと非常に密接な関係があるということです。例えば「脂肪分(悪い油もの)、糖分(デザート・お菓子など)、塩分(塩・醤油)の取りすぎ」「タバコ・アルコールの取りすぎ」「働きすぎ・

気の遣いすぎなどのストレスのかけすぎ」いろいろな「～すぎ」という生活背景が原因となっていることが少なくありません。もちろん循環器科として薬物治療やカテーテル治療は大事で必要に応じて随時行っていますが、これらの生活習慣が変わらない限り本当の健康は手に入ることはできないと考えています。ですので、外来や病棟で受け持つ患者さまには極力これらの改善方法・予防方法をお伝えし、本当の健康を取り戻すお手伝いができるよう努力していきたいと思います。

医師になった理由は、一言で言えば「治る病気であればそのお手伝いをしてその方の笑顔が見たいから」でもどんなに医師が頑張っても治らない難病もあります。だからと言って決して諦めるのではなく、患者様の側で不安な闇の中と一緒に歩き少しでも不安を減らすことのできる医者を目指して日々頑張っていくつもりです。

耳原総合病院 地域医療室

直通電話 072-241-0324

直通FAX 072-241-0208

■「診察・入院申込書」「検診申込書」をFAXいただくか、お電話でご予約をお取りいたします。
※折り返しFAXにて予約票をお送り致します。

■予約当日、患者様が受診の際にご持参いただくもの
①保険証、②診療情報提供書、③上記予約票

※上記の3点をご持参いただくよう、患者様にお伝えください。



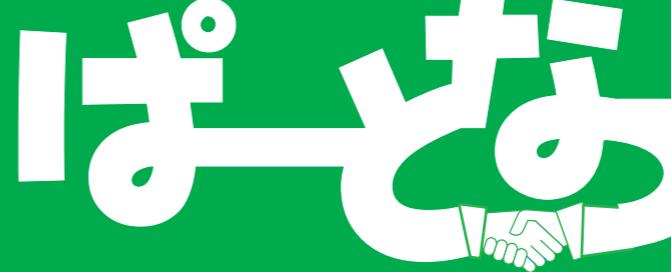
認定:2005年12月13日

■発行人/松本 久 ■発行/医療法人 同仁会 耳原総合病院 地域医療室
〒590-8505 大阪府堺市堺区協和町4丁465番地
TEL 072-241-0501(代表) TEL 072-241-0324(直通)
URL <http://www.mimihara.or.jp/sogo/>

2010年8月10日発行

耳原総合病院の基本方針は
「すべての方に24時間365日、質の高い医療を地域と共に提供し続けること」です

耳原総合病院機関紙



VOL. 102
2010.8 August

耳原総合病院の理念

耳原総合病院はこんな医療をめざしています

♥安全、安心、信頼の医療

♥無差別、平等の医療

♥患者負担の少ない医療



当院における胃の内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）の導入について



耳原総合病院 消化器科

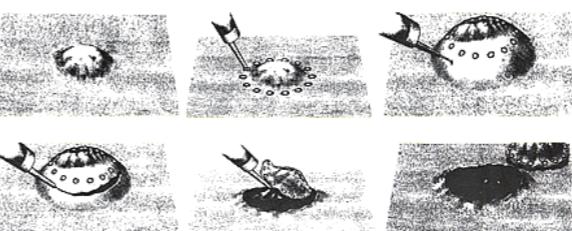
岩谷太平
いわや たい へい

消化器
科

早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（endoscopic submucosal dissection : ESD）は従来の内視鏡的粘膜切除術（endoscopic mucosal resection : EMR）に比べて、任意の範囲の切除が可能という大きな利点があり、急速に普及しています。

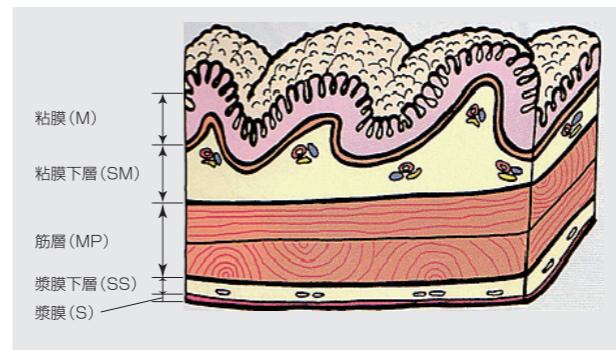
内視鏡的粘膜下層剥離術について
(endoscopic submucosal dissection : ESD)

【内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）】



早期胃癌（粘膜癌）に対する治療法です。ナイフを用いて粘膜下層を剥離し、任意の範囲の粘膜を一括切除します。

【粘膜下層の下1/3が剥離深度】



粘膜下層の筋層直上には血管の粗な層が存在します。そのため、粘膜下層の下1/3が剥離することにより、偶発症である出血の頻度を少なくすることができます。また、この剥離深度により、正確な病理組織学的診断が可能になりました。

ESDの長所と短所～従来のEMRと比べて～

長所
Merit

1. 大きな一括切除が可能
2. 正確な病理組織学的検索が可能
3. 遺残、局所再発を減少させることができます
4. 潰瘍性病変（UL (+)）にも適応が可能

短所
Demerit

1. 手技の習熟の難易度が高い
2. 治療時間がかかる
3. 出血や穿孔などの偶発症の頻度が高い
4. 多種類の処置具や薬剤を要する

内視鏡的治療の適応拡大

従来のEMRでは切除が困難であった広範な病変や、潰瘍（UL）を有する病変も切除することができるようになりました。早期胃癌に対する内視鏡的治療の適応が拡大しています。具体的には、
 ①2cm以下の肉眼的粘膜癌
 ②組織型は分化型
 ③陥凹性病変はUL (-) に限るという適応から、
 ④分化型UL (-) は大きさ制限なし
 ⑤分化型UL (+) は3cm以下
 ⑥未分化型UL (-) は2cm以下と適応が拡大しています。